

# NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第23号

## 令和三年度の締めくくりの催し二種開催 オール台湾デーは第六回目

オール台湾デーは、映画に加えて「台湾何でも相談会」が懇談形式で和やかな雰囲気のもとに開かれた。

令和四年三月二十一日

○午前十一時 アニメーション映画「パッテンライ」上映

○午前十二時から「台湾何でも相談会」開催相談者は十名ほど若い方の相談が多かった。

この相談会は台湾に旅行してみたい、台湾に留学したい、台湾で活動したいなどの要望に専門家がアドバイスする形で開かれ相談員は台湾に長年居住映画製作に携わった小出正之会員が中心になって、台湾留学と勤務の経験がある在留資格を専門にする行政書士の呉宗俊、ユーチューバーのKentakashitvのKENTAの各氏の三人。ゆっくりと親身になって相談に応じた。

○午後一時五十分

ドキュメンタリー映画「空を拓く建築家・郭茂林という男」を上映した

○午前十二時から

台湾スイーツ、タピオカ、パインケーキなど台湾と五十年前から友好都市提携している福島県玉川村のさるなしジュースなど地場産品の展示、頒布を実施した。

終了 午後五時

鑑賞者と個別相談会相談者を含めておおよそ五十名が参加した。



台北駐日経済文化代表処  
謝長廷代表から贈られた生花

いい人ネットワーク



特定非営利活動法人  
ベーシックライフインフォメーション協会



### 個別相談会をのぞいてみれば

① 60代男性：チラシを見て来場。

来年から台湾に移住を考えている。年金で生活できるか、と言う具体的な質問からスタート。

現地で飲食店を経営する日本人の方をご紹介し、とても満足されていた。

② 40代女性：チラシを見て来場。

親御さんと同伴。映画を見た後に、台湾への移住の具体的な手続きを呉先生に質問。

③ 20代後半女性：女優業の方。知人の紹介で来場。コロナが収束したら、すぐに行きたいとのこと。台湾の芸能事情を説明、留学ビザでまずは行ってみることを勧め、そのあと、ワーキングホリデービザに切り替えれば良い、と言うアドバイスをした。

④ 20代前半女性：グラビアアタレント。知人の紹介。台湾人のハーフ。中国語はネイティブで話せる。アドバイザーと共通の知人も多かったため、それらの方たちにお話を伺いながら、台湾での活動を具体的に検討することをお勧めした。

⑤ 50代後半男性：映画を見に来たついでに立ち寄った。台湾には何回か行ったので、また行きたいと思っている。相談員と台湾の話をしている内にまた行きたくなってきた。

❖ ❖ ❖

かなり、じっくりお話したので、これ以上、お客様が来たら、対応しきれなかったと思いますが、満足度は高かったと思います。

# 日台文化交流の集い花やかに開催

協会は日台親善交流の一環として相互の文化の紹介を行っているが、今回は沖縄に焦点を当てた

沖縄の歴史と久米島の出来事を体験した語り部の語りと琉球舞踊、映画を鑑賞する集いは令和四年二月二十三日練馬ココネリホールで終日開かれた。

この日も毎年おいでになっている 講師の一龍齋貞花師匠からご挨拶があり、協会の活動に応援をいただいた。そのご厚志に協会員は感激でいっぱいです。

○午前十一時

語り部 渡嘉敷政子さんが健康不調で出演できなくなったので前に収録してあったDVDを大スクリーンに上映した。上映一時間二分。三十人が参加した。

○午後一時三十分

プロの踊りの集団、伊是名(いぜな)の会(原口このみ代表)が沖縄および奄美の踊りを披露した。島唄に乗せた躍動的な素晴らしい踊りに魅了された。

みんな、歌おう  
沖縄の歌。

日本の民間セマの黎明期、その中心にいた台湾人の建築家「郭茂林の物語」

空を拓く

開催日：2月23日(祝)  
入場無料

ココネリホール  
『沖縄語り部の会』

沖縄舞踊家 伊是名

第6回 オール台湾デー  
2022年3月21日(月) 春分の日

映画上映  
11:00-13:00  
13:00-15:00

個別相談会  
13:00-15:00

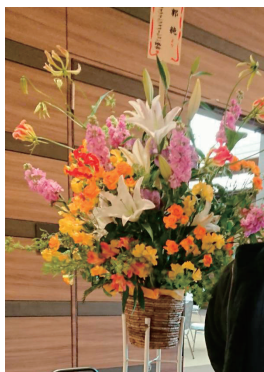
映画「空を拓く」  
上映時間：11:00-13:00  
13:00-15:00

台湾産品の展示、頒布を行った。

この日の来場者はおおよそ六十人で、コロナ対策を十分にとってゆとりのある催しになった。

# 沖縄の歴史と踊り、歌を写真巻物で展示

この会場に 沖縄の歴史と歌、踊りを紹介した写真巻きものが展示された。渡嘉敷政子さんの労作で幅三十センチ、長さ四メートルほど、写真に説明がつけ加えられ、沖縄の歴史と島唄の歌われた背景がわかる手づくりの巻物。西ホールの一隅に展示されて、参加者の注目を集めた。



映画「空を拓く」  
監修者 郭純氏から贈られた生花



アンケートからいただいた  
ご感想を原文のまま載せました。

映画「空を拓く」

3月21日 オール台湾デーのアンケート

○今回2回目ですがとてもよかったです。

○郭先生の先見性、そして設計なさった建築構造の剛直さと美しさが、先生の方を拝見しているように大感動、先生ありがとうございました。

○日本の超高層ビル開発の礎を築いたのが台湾人とは知りませんでした。また当時台湾人と日本人との間で大変な差別があったことも知りませんでした。

○高層ビルを見上げるときの感想、浄水場がビル街に変わる様を見て来た同世代人として郭個人のとらえ方を見た映画はまた時代にはんろうされていた事に感慨が深まる思いました。

○前回見ました。とてもよかったです。

○郭茂林という人物と偉業を学べてよかったです。ありがとうございました。

# 友禅の着物を華麗に展示し注目されました

台湾をモチーフとした東京手描き友禅の着物の展示が注目を浴びました。

製作者 尹世玲・加藤美智子両氏が日台のシンボルになるよう企図したもので、台湾に日本の文化を紹介する本会の目的に沿っているため協会は寄託を受け入れて鑑賞に供しました。

この作品は練馬の伝統工芸作家森川雄大氏に製作依頼され、完成まで一年



余の歳月がかげられております。

この間、森川氏は台湾に出掛けて台湾の記念すべき風物に接し、独自の優れた感性のもと、金糸を繊細で高度な技術を駆使して精緻を極めた世界に一枚しかない友禅に制作なさいました。

今日まで練馬区伝統工芸展、台北駐日経済文化代表処等で披露、絶賛されています。



## 協会事務所よ さようなら

## 長年の使用に深謝

協会が借用してきた地下の会議室、一階事務室兼応接室、厨房、二階ゲス

トルームバスタイレ、ベッド付きの事務所は所有者の再開発工事のため取り

壊すことになり、令和四年三月三十一日に返却しました。

この事務所は加藤美智子氏の台湾の友好親善のために役立っなら無償で使ってもよいとの好意により、十年余にわたり無償で使用させていただきました。長年のご厚志に衷心から御礼申し上げます。



今後の協会の会議、打ち合わせは練馬駅近接の練馬ココネリで行います。



会議室



応接室で学校交流の説明をしています

## 台湾と蝶を繋ぐ不思議な縁

黒柳 昌樹

私が台湾を初めて意識したのは小学校に入学した頃のことだ。1970年代の中頃、当時台湾で鰻の養殖を営んでいた伯父から、お土産に美しい蝶の標本を買った時の興奮は今でも鮮明な記憶として頭に焼き付いている。自他共に認める昆虫少年だった自分にとって、こうした台湾との出会いも一種の必然だったのかも知れない。

時を同じくして沖縄海洋博覧会が開催され、沖縄で見られる蝶が掲載された本も手にし、台湾と沖縄には同じ種類の蝶が数多く生息している事に驚いた。不思議に思い図鑑で調べてみると、概ね奄美大島以南は台湾からインドネシア方面の熱帯を起源とする動物が生息する「東洋区」に属している事が分かり、妙に納得出来たのを思い出す。

時は流れ21世紀に入り、沖縄で広告や教科書等で使う動植物の撮影を生業とするよ

## 捨てられない歴史

会員 加藤 美智子

育み育まれた自己満足。見つめ、見つめられた絆。思い出が捨てられないまま、短くも長くもあつた日台文化交流の志を共有し、活動してきた数々の記憶を振り返ると、その中の一つに年に一回特に心を掛けた事業企画イベントがあります。

「オール台湾デー」です。その時々話題を取り入れ励ましあい続けて六回、いつも「一緒にどうぞ」と呼びかけて応援をいただいていた。

忘れられない歴史追想をする私は、各人が語る台湾の良き記憶、先人が育んだ大事な縁、とっておきたいレガシーが使命感と

うになり数年が経った頃、以前勤めていた会社の元同僚から一本の電話が入った。「今、台湾の埔里に来ている。」との話で、つい最近になって彼の母親が埔里で生まれ育った事実を知り、ルーツを辿りに行ってみたら、とても良い所なので是非来てもらいたいので、成田から桃園の往復チケットに交換して準備は整った。

中正国際空港へ降り立つと、まだ新幹線は建設中だったので自強號に乗って台中へ、そこからバスに乗り換えて埔里へと順調に到着。友人に紹介してもらったホテルへチェックインすると、日本教育を受けて育ったという老板が流暢な日本語で歓迎してくれた。いや、流暢というよりは「美しい」と言った方が適切かも知れない。明治生まれだった自分の祖父と会話をしているような懐かしさすら覚えたのも偶然では無いだ

なっていて、今は次世代にどのようにつながっていくかの大切な継承作業の時に来ている、と意識しているところだ。

ホームページでこの会の内容・目的などがご理解できると思いますので、ぜひご覧いただきたいと願っております。

また会報第二十三号の制作中は「そういうものなのだ」と発見することが度々で、重要な「関係作り」を話す機会も多くなりました。

協会タイトルは「いひとネットワーク」集台課題であります。捨てない歴史と無限の未来の「歩」を見守り祈っております。

ろ。

伯父が「台湾には蝶の集まる谷があるらしい」と言っていた事を思い出し老板に話すと、霧社へ向かう途中にある「南山溪」という場所を教えてくださいましたので、翌朝一番でバスに乗り込んだ。バス停から地形を頼りに歩いていると、蝶のイラストに「標本工房」といった文字の入った看板を掲げた建物が目につき始め、ここで間違い無いと確信する。程無くして日本語で「どこから来たの？」と声を掛けられたので経緯を話すと、親切にも蝶の集まる場所まで案内して頂き、大変素晴らしい一日となった。撮影を終えた帰りに、もう一度話をすると、以前は蝶の標本制作が盛んな集落だったものの、現在は高齢化でほとんどの人が引退しているかと教えてくれた。また、採集ではなく撮影が目的と分かったので秘密の場所に案内したと言われ、改めて不思議な縁のような物を実感する事となる。

それから早くも20回は台湾に通っただろう。コロナが収束したら真っ先に「ただいまー」と里帰りしたい心の故郷だ。



台湾の仁愛郷にある、美しい庭を有する民宿。庭にはルリモンアゲハをはじめ、様々な蝶が訪れます。

### アンケートから

いただいたご感想を原文のまま載せました。

3月21日 オール台湾デー

映画「パッテンライ」

- 本当に涙と共に見終わりました。感激です。
- 美しき緑の国とそこに住む方々の暖かさがとても伝わってくる憧れの地という感をますます感じました。
- 何より農民ファーストの考えを貫いた八田さんの人柄に大変魅了されました。何年もかかる大変な事業に頭が下がりました。上質な映画でした。感激しました。
- 八田さんのことは知っていましたがこの映画でとても詳しく知り、本当に涙と共に見終わりました。よい映画を見るチャンスを得、ありがとうございました。
- とてもよかったです。勉強になりました。
- 八田と一さんの映画パッテンライの意味が理解できました。素晴らしいと思いました。日本人の鏡ですね。雨夜花も懐かしかったです。
- 私は台湾に十五年も住んでいて父から聞かされていた台湾のために活動した人の話は数多くあることを知りました。
- とてもよい映画でした。八田さんのことは本で読みました。また現地のグムにもゆきました。
- 話は知っていたが全体の話が解り勉強になりました。こういう歴史があったことを勉強になりました。

# 九十五年の生涯を顧みる

呉 正男 (元会員)

親日台湾の所為か近年台湾事情のマスクミ登場が少なく、反日騒動発生の際に韓国事情が目立っていた。

最近、台湾有事は日本有事論となり台湾関連記事が急増加した。嬉しい限りだ。私は日本公使閣諸島有事は台湾有事と思っている。

大東亜戦争では約二十万人が南方戦線に日本兵、軍属として参戦し、主として志願入隊した約三万人が戦死した。

私も陸軍に志願入隊し、戦後はソ連抑留を経験したのである。

私は昭和二年に台湾で生まれ、小学校卒業後東京の中学校に単身上京入学した。

中学一年十二月に戦争が始まり、戦況悪化に伴い陸軍は「特別幹部候補生」を新設して主として中学生を募集した。私は中学三年終了の昭和十九年四月に志願し、第一期生として陸軍水戸航空通信学校に入隊、選抜され、機上通信士二百名の中隊に配属された。台湾出身は私だけだった。

昭和十九年十二月に西筑波飛行場の滑空飛行第一戦隊に配属された。



近影



日本兵として 満 16 歳

この戦隊は九七式重爆撃機がロープで大形滑空機（武装兵約二十名乗りのグライダー）を曳航し、敵陣にて切り離し、滑空機を強行着陸させる空挺戦隊だった。私は着隊早々重爆撃機の機上通信士として、比島方面に出撃直前だった。しかし先発した滑空機搭乗の、特別訓練された空挺先兵隊が乗船した空母「雲龍」が十二月十九日東シナ海で沈没したので、滑空飛行戦隊の出撃は中止となった。

夜間曳航訓練のため昭和二十年五月、朝鮮半島の日本海に面した宣徳飛行場に移動した。七月初旬に沖繩出撃の内示があり、出撃搭乗員の選抜があったが私は要員に選ばれなかった。

主力の重爆撃機八機、滑空機八機は「神龍特別攻撃隊桜空挺隊」と命名して八月五日、宣徳飛行場を出発、私は見送り、自分の戦死は伸びたと安堵した。

我々残員部隊は朝鮮西北部、新安州飛行場へ移動の準備中に八月十五日の玉音放送を聞いた。雑音が多く発音が不明瞭であったので、隊員達も落胆、動揺がなかった。

敗戦の経験がない残留指揮官は、戦中の命令通り列車で八月十六日北上出発した。目撃した避難民列車の南下もあり、平壤飛行場に入り新命令を待つ事にした。南朝鮮への三十六度線を脱出する機会を失ったので、大半がソ連抑留になった様だ。

必死の覚悟で出撃した桜空挺隊は出撃せず「幻のグライダー部隊」となった。私は西部の新幕駅でソ連兵に抑留され、東海岸の元山港まで野宿し乍ら約一週間かけて横断した。

ソ連向けの出航地、興南港で伝染皮膚病の「疥癬」にかかり、隔離入院させられ出航入ソが大幅に遅れの二十年十月初旬頃だった。

約四十人乗りの大型貨物車に乗り、二十三日後に中央アジア半砂漠地帯のカザフスタン西北部、グズオルダの収容所に入った。寒冷期には零下30度にもなる悪環境、衣食住の不足と重労働のノルマが加重された。当時の苦難は思い出したくないで口外したくもない程だ。

約二年後の昭和二十二年七月、舞鶴港に上陸することができた。体重が十一貫（約四十一キロ）に激減していた。

父親から帰台せずに勉強しろの指示には驚いた。私は台湾で中学受験で二回不合格となり、軍歴約二年、ソ連抑留で約二年の計五年遅れで新制高校一年に入学した。旧制中学卒業者は新制高校夜間部四年に入学、卒業すれば大学受験資格が得られる事を知った。

東京華僑総会に「台湾の旧制中学を卒業して陸軍に入隊しソ連抑留から復員した。大学に進学するために卒業証明書を入手できない」と理由を書き復員証明書と保証人二名の捺印を付けて提出した。無事詐称の

卒業生であると証明書を買い夜間部四年に入学、大学受験の資格を得ることが出来た。私は高校二年と大学四年の六年間、横浜伊勢佐木町の小さなパチンコ店に店長として住み込み働いた。

私が大学在学中に同年輩の台湾人達は就職難もあり、帰台よりも新中国の建設に参加すべく昭和二十七年前後に渡った。私も大卒後に大陸に行くつもりだったが、中華街に創立直後の信用組合横浜華銀に就職した。専務理事十八年理事長六年と働き、満七十二歳で退職した。

私の九十余年の人生で最大なる幸運を得たのがソ連抑留の二年であったと常に神仙に感謝している。ソ連抑留の遠因は台湾の中学不合格、東京の中学から志願入隊、戦後南朝鮮へ脱出不能があったからである。五年遅れの復学等が幸いして台湾に帰郷せず、新中国にも渡らず日本に在留して幸者になった。誠に有り難い人生と思う。

戦後台湾関係の台湾協会、練馬台湾の会（東京台湾の会）高座会、李登輝友の会に入会、努めて諸集會に参加して親台湾の多くの良き友人、知人の縁を頂いた。当協会現役員の方々は三十余年来のご交誼を得ている。ありがたい事だ。

台湾人としては珍しいソ連抑留経験者であるのでインタビュー、投稿、講演に応じている語り部と自認している。

台湾には現在でも台湾人建立の日本人多数の銅像や慰霊碑、廟が各地あるのに、日本には日本人建立の台湾人戦没者慰霊碑は奥多摩山中の一カ所しかない。不思議で甚だ残念に思う。日本各地に台湾人戦没者を慰霊、顕彰碑の建立を切に願ひ、日本と台湾の共存共栄を切に願っている次第である。

台北市立旭国民学校学び舎との邂逅

田代 實範（会員）

もう三十年も前のことであるが忘れることのない感激を今ここに記します。私は父の転勤で小学校を四回も変わった。したがって高学年の二年間在学した台北市立旭国民学校には強い愛着を持っている。

旭の校舎は鉄筋コンクリート三階建てで東門の近くにある三十六学級を持つ名門校であった。校舎に入ると教室の中は黒板の左右に明治天皇御製と昭憲皇太后御歌が書かれていてしばしば

斉唱した。

授業はしつかり行われて勉強に運動も盛んでいい学校であった。印象に残っているのは「教育勅語」と「青年学徒に賜りたる勅語」の暗唱と清書である。何度も繰り返し返すうちに覚えた。私は歴史が好きで今でも語っているのが歴代百二十四代天皇の贈り名である。

戦時下でも昭和十九年になると中学校の志望校合格を目指して勉強に熱が入った。空襲が激しくなり卒業式は千九百四十五年三月の夕暮れに校庭で簡

素に行われた。

あれから五十年がたった平成九年、旭国民学校改めの「東門国民小学」から同窓会を通じ創立百周年の祝賀行事の案内が来た。日本統治五十年も通算して百年、日本人の卒業生と共に祝おうという温かい心遣いである。

私はすぐに参加を決めた。愛校心に燃えた同窓生は日本各地からツアーを組んで参加した。同窓会有志八百人の抛出の四百余万円も携えた。学校はそれに応えて校庭に李登輝總統の題字を刻んだ「百年樹人」の石碑と泉水を築

景観は勉学に使用するに十分である。

百周年の学校を祝う記念品の愛校の気持ちは十分である。水の環は瀑布の形を作っている魚を見て覚え魚を愛護し周辺の植物を見て覚えよう」と喜んでくれた。

記念式典後に校内参観があった。きれいに掃除された校舎内を見て回った。やがて私が学んだ二階の端の教室に入った。なんと変わらぬ姿で私を迎えてくれたではないか。今も大事に大切に使われていると感じた。私は感激のあまり、席に近い柱をそっと撫でた。懐かしい学び舎との邂逅五十年の感激で体が震えた。

この行事は「前夜祭」「式典」「体育表演会」などがおこなわれた。

李登輝總統、陳水扁市長 いずれも当時（がおいでになり警咳に接することが出来た。護衛も少なく運動場を市民の歓呼に依って一周する姿を目の前にして、台湾民主化が地についていることを実感した。

この邂逅以後訪台の際は必ず立ち寄るようにしている。今はコロナ蔓延で行けないのは本当に残念である。

景観可用教学、百周年校慶記念、激励愛校感情、水的循環、瀑布的形成、認識魚愛護魚、認識周辺植物（この景観教学に用うべし、百周年校慶記念の愛校の感情は激励である。水の循環は瀑布の形を成す。魚を認識して魚を愛護し周辺の植物を認識せん。この



日本卒業生創立百年訪問歓迎の「百年樹人」



〈祝賀の表演会〉児童たちの踊り

# 「植民地台湾の日本女性生活史」

竹中 信子

55歳になった時、私は其れまでのピ  
アノ教師の仕事を辞めて、表題の研究  
を始めることにしました。台湾には男  
性と同数に近い女性が住んでいながら、  
その女性たちについて調べられていな  
いのは歴史の大きな空白だと思いつけ  
ていたからです。呼びかけても共同  
研究者が出てこない。それなら日清戦  
争時、祖父竹中信景が近衛師団司令部  
と共に渡台して、3代に至るまで台湾  
に住んだ一族の私が独りでも調べる以  
外ないか、と轉身したのでした。

女性史を調べるためには女性のこと  
だけを調べても決して分かるものでは



大日本国防婦人会の集会 蘇澳公会堂

ありません。男性のこと、当時の社会  
全般、風俗、政治や台湾植民地統治、  
内地本土との関係、世界の中の日本、  
長い歴史も調べなければなりません。  
当時、台湾女性資料は皆無に近く証言  
者の年齢の偏り、全て手書きの能率は  
悪く、覚悟した以上の苦労があったの  
ですが、2000年10月に明治編、大  
正編、昭和編上下巻を含めて4巻を書  
店に出すことが出来ました。

その年の暮れの朝日新聞の書評欄  
「ノンフィクション部門・今年の3冊」  
に選ばれ、交流協会からは中文翻訳を  
台湾で出版して載けて、日本と台湾の  
交流に少しはお役に立つであろうかと  
と安堵致しました。

その後、本は絶版になり20年余も経  
ちましたが類書が出てきませんので、  
極めて大雑把ですが、概要だけでも書  
き残して置くのが良いのではないかと  
考えてみた次第です。

資料探しに当たって台湾の日本女性  
史が、男たちに騙されて娼婦稼業を強  
いられた女たちから始められたことを  
知り、彼女たちの鎮魂も兼ね真実を  
知って貰わねば、と奮い立ったもので  
した。

当初は治安が悪い瘴癘の地ですから

男たちは単身赴任、堅気の女性たちは  
内地で夫不在の家を守り、舅姑に仕え  
子育てをしています。官舎や社宅の増  
設や娯楽に配慮し教育施設を充実し  
て、家庭が営めるようになってきたの  
は、明治35年ごろ、治安が回復してか  
らです。

少ない紙面の中で50年の膨大な女性  
生活を紹介するために、私は極めて大  
雑把ですが、女性団体を縦の関係の強  
いもの、横の関係の強いもの、その他  
に大別してみました。

縦の関係とは、総督府に密着して、  
国策とか総督府の政策に協力する上意  
下達の強い団体です。全島的な大きな  
組織を有し経済基盤も強固です。

その一つ、「篤志看護婦人会」は日  
本赤十字社に属し、明治32年に台湾支  
部が出来ました。

日露戦争ごろに発足したのが「愛国  
婦人会台湾支部」と「台湾婦人慈善会」  
です。

愛国婦人会は奥村五百子が「北清事  
変で苦勞する兵士を思い、女性も銃後  
で協力しなければならぬ」と創立し  
た団体。台湾婦人慈善会は後藤新平民  
生長官の強い意向で生まれました。ど  
の会も台北に本部、地方に支部などが

あります。

篤志看護婦人会と愛国婦人会の活動  
は国策協力に近く、衛生や災害時の募  
金や救援活動、日赤看護婦や傷病兵へ  
の支援やお見舞い、軍事献金や軍需品  
慰問袋献納などで奮励しています。内  
地の本部の要請に従って活躍すること  
が多いのも共通しています。

台湾婦人慈善会は、台湾は内地から  
遠く離れている、内地の指令を仰がず  
独自に活動できる会が必要である、集  
めた金も台湾で使いたい、というもの  
です。この会はそれ以前にキリスト教  
婦人たちが中心になり、バザーや慈善  
音楽会を催して、日清戦争で親を失っ  
た子供を育てる岡山孤児院や、足尾銅  
山被害者救援、台湾での図書館設立な  
どを支援していたのを踏襲し、島内の  
社会事業を実践する団体でした。高松  
同仁社と組んで映画興行などで基金を  
集め、貧民のための施療ベッドの確保  
や、高雄や基隆などに低所得者向けの  
長屋を多数建設したりしています。

この三つの団体は、総督府同様、ミ  
ッド型の組織で、長となるのは台湾  
総督府民政長官夫人、幹事も局長や軍  
司令官などの夫人の兼任ですから、や  
がて三者合同で幹事会が開かれるよう

になりましたが、日露戦争後、後藤長官が台湾を去ると、篤志看護婦人會も台湾婦人慈善會も鳴りを潜めてしまいます。

後年、婦人慈善會の會長小宮たも子が「どんな提案をしても男性が賛成をしてくれないので活動できない」と嘆いておりましたが、會長にだけ女性を据え役員はすべて男性で、主導権と金を握っていたのでした。

愛国婦人會は内務省系の會で、總督府や地方州庁の中に會の事務所があり、実務を行っているのは主事以下事務員に至るまで、ほとんど役人の兼務です。夫人幹部は担当役人と活動を企画したり便宜を受けたりしていますから、到底独立した婦人の會とは言えないと思います。が、その故にこそ、總督府が政策面で夫人の力を借りたいときは、愛国婦人會に要請し、愛国婦人會は熱誠込めて協力します。もともと地方行政のトップ、州知事・庁長が愛国婦人會の顧問、その夫人たちがその地方支部の長ですから、總督府政策に対して妻の内助の功的貢献をしたのでした。

愛国婦人會のみが一貫して主流で活動できたのは、官僚との癒着。内地と縁を切りたくない婦人たちの心情。後藤長官が、山地原住民対策で死傷した警官や台湾人人夫・遺族の救援対策を

會務に織り込んでいたため、年金や見舞金を贈る活動の場があったからです。

また時代に応じて、纏足廃止運動、国語普及、養蚕事業技術者の養成、女子教育や幼稚園事業、料理・刺繍・洋裁・和裁・タイプライターなどの講習會、各種講演會など、台湾に住む女性の教養や技術取得のために貢献いたしました。

軍縮問題や満州事変、日中戦争がはじまると、再び戦争協力優先となり、廃品回収、金やフチナの売却や献金・献納運動、軍隊奉仕、陸軍病院奉仕に献血、婦人のできることは何でも始めました。

内地では満州事変の頃から自然発生的に母親たちによる「国防婦人會」が生まれ、軍の後援もあって燎原の火のように庶民婦人層を席捲していきました。

この頃は良妻賢母主義インテリ女性の大日本連合婦人會と愛国婦人會、新参の大日本国防婦人會が内地の三大婦人會でした。台湾の愛国婦人會は、ライバルとなった国防婦人會の台湾の抬頭に備えて愛国少女団、愛国子女団などを内地に做って創設、若年層を吸収して組織強化を図ります。官僚的とか官尊民卑、上層女性の社交機関などと特権意識を批判された体質も改善しようとしています。この會の官尊民卑は極端

に過ぎるものがありました。

會員の中には台湾人女性が多数いました。屈指の資産家夫人の多額の献金や、実際活動はしないものの彼女たちの納める會費は愛国婦人會の大きな財源でした。

昭和の大恐慌など不景氣時代にファシズムが巻き起こると、軍が官を凌駕して軍部と在郷軍人會の発言は威圧的になっていきます。

日中戦争の開戦後、台湾では在郷軍人會の支援で、国防婦人會が発足いたしました。台湾軍司令部の大きな表札と同サイズの国防婦人會の表札が並び「台湾婦人は悉く国防婦人會に入会せよ」と軍人が檄を飛ばし将校夫人が指導的立場に就きます。しかし実績ある愛国婦人會の地盤はなかなか食い破れません。その活動も屋上屋を重ねるように愛国婦人會と同じような活動をするが、飛行機献納や建艦運動のような大きなことはやれません。

大東亜戦争前夜の昭和16年4月、「皇民奉公會」が全島民を統一して国家総力戦に備えることになりました。内地と同じく愛国婦人會と国防婦人會は合同させられて「大日本婦人會」になります。また台湾人の「保甲婦人會」などすべての婦人団体は既婚、未婚の會を問わず皇民奉公會の傘下に編入されることになりました。全島一丸体制と

なったのです。

戦局悪化しフィリッピンに戦場が迫ると、昭和19年台湾は作戦地(戦地)となり、同年10月に台湾沖航空戦、再び翌年1月から終戦近くまで連日連夜、台湾のどこかが空爆を受ける状況となりました。生活物資は極端に不足し、爆撃と疎開で各組織は麻痺したまま、全団体が台湾死守の義勇団に編入されます。以上が体制的な縦系婦人団体の概要です。

次に横の關係の強い団体を紹介いたします。

**地域婦人會**……これは各地方の市街など民間婦人たちを中心に組織されたもので、地域婦人の親睦や助け合いなどを汲んで協力もします。有力な台中婦人會、基隆婦人會、高雄婦人會などは會館を建てたり、市民のための桜祭り、軍人慰安などの大イベント、娯樂などで華々しい活躍をします。地方に住む婦人たちの意欲、能力、経済力が発揮されます。

**宗教關係の婦人會**……地域でお寺や教會に集う婦人たちのそれぞれの奉仕活動など、特に冠婚葬祭などの助け合いや親睦會が多かったと思います。キリスト教婦人矯風會は禁酒禁煙や娼妓保護、天理教婦人會は台湾人社会にも奉仕活動を広げていました。

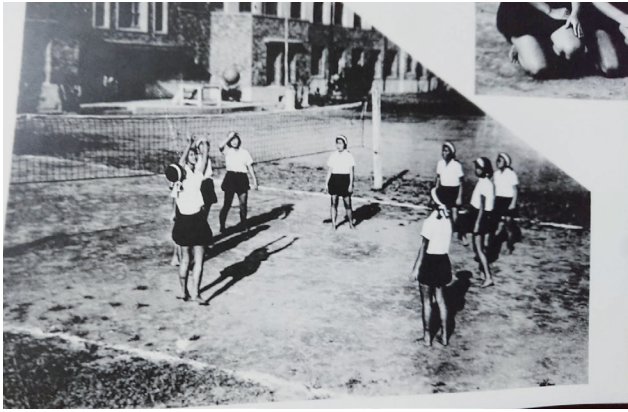


**各種職業団体**……領台最初にできた看護婦会、産婆会、時代が下って女教師会、保母会、女性の社会進出で、官庁、銀行、電話交換手たちなどの数多の会が生まれます。専門職の研究会和相互連絡、お稽古ごとのサークル活動が多かったと思います。

**女子青年団**……地域の未婚の台湾女性が殆どで、役所の指導で台湾社会の啓蒙、改善、食糧増産、日本語普及に実践的役割をさせられています。

日本女性の青年団は農村、漁村の移民部落に少数しかありません。

**趣味の会**……内地よりも経済と時間、自由に恵まれた日本女性のお稽古事は多かったのですが、発表会や展示



台北州立蘭陽高等女学校バレー部の活動

会などで披露するくらいで、社会的に何かを果たすことはありません。

**花柳界**……検番に属する芸者たち。一般社会と生い立ちや住み分けが違っているのが誤解されがちですが、彼女たちは伝統芸能の継承者です。特殊な社会扱いなので、自分たちの福利や更生のために会を結成。台湾の「三光会」が有名です。

台北には早くから娯楽機関として劇場や映画館などを経営し、不動産の地位を確立したのは永戸トモ子と古屋せんで、不幸に負けず花柳界から身を起し、トモ子は「吉乃亭」で興行モノや映画で活躍。また「世界館」の名の映画館を多数経営して大成功を収めていたのが古屋せんでした。彼女たちは女傑といわれ、女性たちの活動にも会場を提供して協力的でした。

台南の建築界の住吉組では夫の死後、夫の事業をさらに発展させた住吉タツが芸者上がりでしたし、「一人でも三千人とは、これ如何に」と言われた事業家古賀三千太郎の妻、古賀千代子も芸者出身。「台湾婦人界」という婦人雑誌を創刊し社長として、台湾女性の気概を示したばかりでなく、夫亡き戦後は東京で愛光新聞を出版し、台湾引揚者のために貴重な活動を残しました。また、台湾財界の第一人者といわれた明石初太郎の花柳界上がりの妻

は、初太郎の雌伏時代から成功後も、料亭を経営しており、初太郎をして「妻を大切にしない男を自分は尊敬しない」と言わしめています。

一般社会から泥水家業の出身のように軽蔑されることもありながら、男に頼らず経済的に自立し、結婚後も自由に能力を発揮した人間力、強い女を先取りした生き方には教えられるところが多々あります。

その他の重要な存在に、組織されていませんが一つの範疇に入れるほうが理解し易いグループが沢山あります。

**娼婦たちの群れです**。……世界に恥ずべき娼妓制度で冒頭に触れたように社会の最下層に置かれて差別され、絶えず売買され人権を剥奪されています。警察官と同数くらいと言われる彼女たちの存在は、一夫一婦制の破壊者のようにありながら、この制度の安全弁の役割も果たしていると思います。一般社会と接点はなく、妻の座や子供は諦めざるを得ません。

必要悪と囁かれた彼女たちの解放のチャンスは台湾では4回あったと思います。

1 回目は明治33年、親の承諾書のない娼妓は解放されることになったマリ・アルス事件のときですが、受け皿のない解放では自立出来ません。

2 回目、大正12年、クリスチャンア・ナキスト稲垣藤兵衛が、大稻埕で「人類の家」を開き台湾人奉仕を始めました。同時に妓楼業者と戦い、統治期間中に娼妓千人以上を救済したといえます。

3 回目は昭和初期から、救世軍が台北と台中に支部を置き、娼妓解放運動を始めました。

4 回目は終戦後、総督府は妓楼関係者に命じて戸籍や娼婦契約書を焼却させ、娼妓たちに自由を与えました。外国の占領政策に対し日本社会の恥ずべき面を隠す意図もあったことでしょう。

昭和に入るとバーやキャバレーで働く享楽方面の女性が増えました。

**娼婦たちの対極にあるのが夢も希望もある女学生や同窓会の群像です**。

……

教育は国家的事業ですから体制順応です。明治以来、国家は近代化の一途を辿っており、絶えず伝統的な思想と生活様式がぶつかり調和を図らねばならず、女学生は社会進化の先頭に立たされるのでした。

教育の普及と並行してスポーツが振興してきたことは、女性の変化に拍車をかけます。当時「女らしい、という言葉ほど中味の変化したものは無い」と言われていました。

スポーツが隆盛した理由は幾つかあ



愛国婦人会台湾支部雑誌

りますが、趣味や健康増進の個人的な楽しみを国家が絡めとったからです。軍縮問題の中で国は良質の兵士を養成する事が緊急事になります。「強い男児を生むためには先ず強い母体を」と言われ女性の体位向上が奨励されました。全国的に青年団は訓練を受け体力検定が競われ強い兵隊予備軍が育ちます。女子青年団にも同様なことが及びます。

更なる理由は近代オリンピックが始

まって、これが国威発揚の絶好の場と認識されたからです。有色人種の代表日本はぜひとも国名を挙げねばなりません。女学校にオリンピック種目は採り入れられていきます。活発な全身運動は女学生の衣服を改良しないわけにはいきません。優秀なスポーツ選手が生まれ明治神宮競技(今の国体)に出場する女子選手よって、台湾は地域別で全国一の成績を誇るまでになりました。

結婚観の変遷もスポーツ振興に弾みを与えました。世の中は複雑になり人生は多様化し、豊かな生活を求めて経済力を大切に考え始めます。

明治期、女性は美人であることが第一条件であった時があり、次に家柄が重視される時代が来て、やがて学歴に価値が置かれ、続いて健康優先、更にいざと言うとき、技術や資格をもって収入を得られる女性が望まれるようになってきました。戦死覚悟で出征する男たちは老親や子供たちの生活を案じ、妻に戦後の護りを期待しつつ戦地に赴いたことでしょう。

日本の女学生よりも著しい役割を社会に果たしたのは優秀な台湾人女学生です。彼女たちはエリート階級に生まれ、台北第三高女はじめ各地の女学校で徹底的な日本教育を受けました。卒業後公学校の教師、日本語教育などで啓蒙

的に奉仕、日本内地に留学して医学や薬学、音楽や美術などで能力を発揮し、女性の社会進出を同族に示します。

戦時下の女学生には満足な勉強は無く軍隊奉仕、農作業、雲母剥ぎ、ミシンかけ、防空訓練、非常時のニーズに従いあらゆることに動員されます。

台湾未婚女性で忘れてならないのは、志願による看護助手。日赤看護婦の下で厳しい規律の中を、昭和18年から200人、150人、500人と、交替で広東、上海その他の陸軍病院に派遣されました。3回目の看護助手は日本の敗戦で大陸に置き去りになり、帰郷するのに辛酸を舐めました。台湾青年も陸・海軍志願兵志願者の応募では、3回で200万を超えました。原住民の高砂義勇隊の活躍はとくに有名です。日本未婚女性は「桔梗倶楽部」などで国土防衛などの訓練に励みます。

**肉体労働をする女性たち**……日本国内では当たり前ですが台湾では少数派です。高雄や基隆などでは港で仲士として何十人も働いているのが見られました。威勢の良い虚飾の無い女性群です。日本女性は座敷生活のため腰の力が強靱で肉体労働が出来るそうです。

漁業や農業移民として各地に家族共働で移動してくる集団もありました。花蓮港の官宮移民、吉野村などは有

名ですが、西部、南部、何処でも農業は台湾人に負けて四散する場合が多かったのです。無告の民、農婦たちの声は殆ど残っておりません。小規模商業も台湾人には叶いません。

**出稼ぎ組女性**……季節により漁船ごと何十万尾と獲れるカツオで鯉節が作られます。港にある鯉節工場で働く女工たちは内地から何百人も出稼ぎに来ます。工場で合宿して一日中歌を歌いながら鯉を捌き内地へお金を持って帰ります。

また季節を問わず女中奉公目的の沖縄県女性の来台は多く、船客の大部分を占めたため女中船と呼ばれることもあり、台湾の職業紹介所は「まるで沖縄県女中紹介所だ」と評されておりました。

**原住民部落に入った婦人たち**……台湾ならではの女性群像のトップは、理蕃政策に従って深山の原住民部落に入った警察官の妻たちです。まさに台湾ならではの存在で隘勇線という警戒線上の派出所や警戒所、監督所などに赴任する夫と共に、信じられないような不自由の中で、危険、孤独に耐え夫や子供と生死を共にしました。誠首されることも大傷を負うこともありです。

昭和5年の霧社事件はじめ理蕃政策は非難されることが多いのですが、原住民社会に飛び込んで、彼らと日常生活



原住民族部落蘇澳郡キンヤン駐在所の家族

活を共にしたことの相互信頼と文明開化的影響は計り知れないものがあつたと考えられます。「純情な原住民が慕つてくれる。我が子のように可愛くなつてくる」と語る夫人たちも多く、私の友人でも「原住民と兄弟のように育つた」「同じ部屋で一緒に寝起きしていた」と懐かしむ人もいます

**台湾人と結婚した日本女性達……日**

本に留学した台湾人医師など台湾人名家、エリートなどと正式結婚した人たちも、二号、三号として台湾の家庭に入った人たちも予想以上に多かつたと思ひます。もともと台湾漢民族は、数千年以上も前から居住していた台湾原住民、ポリネシア系平埔族の女性と結

婚を繰り返し、したがって混血は幾層にも入っているはずで。混血は優生学的に人類進化に力があつたと思へますが、現実社会のその時点ではアイデンティティや偏見や法律面での不備に悩まされることが多かつたのでした。

以上極めて雑駁ですが台湾に生きていた日本女性を網羅してみました。結婚すると大多数は専業主婦となり、子供を育て家庭を大切に守ることが女の本分でもあり幸福な女の道と思われていた時代でした。

戦争ほど愚かしくて残酷なものはありません。ささやかな家庭の幸せは破壊され愛情は蹂躪されます。天皇と国

のために夫や子供を

殺人に加担させ命を

失わさせる。言論の

自由は抑圧され、拳

句の果てに文化遺産

も住居も爆撃されて

壕や穴のなかに潜り

込む。食糧調達に苦

しみ医師不在の疎開

先で病人は死に、初

等教育を除いてすべ

ての学業は中止、と

いう世の中に成り果

てました。

そして8月15日。

ポツダム宣言により敗戦国日本は台湾を放棄することになりました。

台湾在住の日本女性と戦争の結果はどんな関係があつたでしょう。私が人格、学識共に尊敬していた台湾引揚者が「台湾にいた日本女性を一言で言うなら、従順です」と話しました。

東京などへ出て共産主義者になつた女性はいませんが、女権拡張運動、労働運動、選挙権獲得運動が弾圧される中では、植民地統治者の特権を持つ側や従順な者達から反骨者は出てきにくいのです。

これらの従順な日本女性は、戦時下、男不在の穴埋めと生活維持に社会進出して、男たちのしていた仕事で時には男以上の能力があることを証明しましたし、体力も強化していました。

引き揚げに当たつて大荷物を背負い、幼児たちの手を引き、ときばきと行動し、弱音を吐かない自分の妻の頼もしさに驚いた、と告白する男たちは多かつたのです。

女性たちは、全財産を失い波が引くように台湾から内地に行き、海外各地からの引揚者と共に、家族のため飢餓線上で必死に戦うことで、祖国を敗戦のドン底から引き上げることに貢献したはずで。

更に海外で異民族社会に住み異民族と暮らした体験は、単一民族になりた

がる閉鎖性ある日本社会に無形の図れないほどの養分を抜き込んだことが、その育てた子供たちの社会的存在で証明されているとも言えます。

ただ、植民地統治という構造的差別社会の中に生きていたことに気付けなかつた鈍感さは残念なことでした。

戦後80年、紆余曲折の歴史は流れ、日本の台湾植民地時代も、有史以前からの悠久の台湾史の中にモザイクの一つとして小さく嵌め込まれ遠去かろうとしております。台湾で生活した日本女性たちも故郷台湾を懐かしむ感情を抱いてこのモザイクのカケラの中に、点以下の存在として入り込もうとしています。これが時間の中を生きている庶民の運命で、台湾で生きた日本女性の結末でもあります。

しかし台湾に生きた日本人が台湾を去つても台湾を故郷と懐かしみ、台湾人を同郷人として愛し、男女ともに日本と台湾の友好の永遠を願って生きていたことは、忘れてもらいたくない歴史の真実なのだ、と私は言い残しておきたいのです。

註)台湾では「原住民」の語は差別語ではありません。

**協会短信**

二月二十三日の沖縄の踊り等の会 一万七千二百八十二円、三月二十一日のオール台湾デーに 三千九百五十円の参加者有志から寄付がありました。このお金は協会会計に入れました。

○ベシックライフインフォメーション協会は、日本と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行っているNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄付によって運営する自立したボランティア団体です。  
 ○「基礎生活資訊協會」係本著以日本及台灣親善友好交流為目的、(不定期)舉辦活動之NPO法人協會。同時是一個各項經費支出來自於會員會費及各方捐款的獨立自主營運的志工團體。

**「空を拓く」の映画をあなたに提供します**

ドキュメンタリー映画「空を拓く」建築家・郭茂林という男」をあなたのご都合がいい日に上映します。お申込み下さい。

**上映対象** グループ、家族で参加人数2人以上5人以上、協会会員の紹介のある方。  
**上映日時** ご希望を伺い調整して決めます。  
**上映時間** 85分 映写機により上映  
**上映場所** 相談して決めます。  
**上映費用** 無料 会場までの交通費は参加者負担です。

**DVD沖縄語り部の語り 貸出しのお知らせ**

沖縄の歴史と久米島の戦争末期の出来事を語った語り部 渡嘉敷政子氏のDVDを貸し出します。  
**申し込み** 協会事務所 無料

**構成員名簿**

令和4年5月1日現在

理事長 加藤美智子※  
 理事 中村 和利  
 理事 林 政明  
 理事 松山 達郎  
 監事 郭 純※

磯田 芽久美  
 上里 佑子  
 エムディ モスタ  
 ファイズル ラハマ  
 江波戸 つぎ  
 小出 正之  
 小出 智子  
 洪 彩栗  
 児玉 治  
 須貝 克俊  
 田代 實範※

等々力太偉  
 鳥本 信子  
 鳥羽 展維※  
 豊川 玉蘭  
 仲里 建良  
 中村 佳代  
 畠中 治憲  
 村尾 則広  
 林 銀  
 一青 妙  
 矢田富士子  
 吉川 則孝  
 匿名  
 (株)K'sトラス  
 (担当)山下賀久  
 ※は映画製作実行委員会委員

**◆会員募集◆**

本会では会員を募集しています。日本と台湾の友好親善活動をします。無償のボランティアです。意欲と行動力があれば年齢、経歴など問いません。お問い合わせは事務局まで。

協会ホームページの案内

ホームページ <http://blia.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/bliasoc>

**●編集後記●**

○沖縄の踊り等の会はコロナ感染症蔓延のため出演者の辞退が広報後になりました。急遽、伊是名の会にお願いしたところ快諾の返事を受け、実施しました。司会は磯田芽久美会員、ともに好評でした。  
 ○コロナ感染症の蔓延で行事の実施に不安を覚えた時もあったが、幸い協力してくださる会員はじめ支援者の力ですべて予定通り開催できた。心配された参加者も多く来ていただいて余裕をもってお迎えすることができた。参加者、出演者、実行委員の皆様にご挨拶を申し上げます。

○今回も元会員、協力者から寄稿をいただいた。全文を掲載しご覧いただくことにした。厚く御礼申し上げます。  
 ○協会の活動を施設の面で支えてきた事務所を引き払うことになった、十年以上にわたって無償で使用させていただいた。ただただ感謝の気持ちである。退去によって大きな支えを失った寂しさと落胆を感じる。将来明るい展望が開かれるであろうことを期待して頑張ろう。

○会報第一号から今号二十三号まで(十七号を除く)十年余、編集発行に従事した私 田代實範が任を降りることになった。高齢化で能力は限界やがては迷惑をかけるからである。思えば長い間多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。心から御礼を申し上げます。  
 (田代實範)

特定非営利活動法人

ベシックライフインフォメーション協会

会報第23号

発行日 令和四年五月一日

発行所 東京都練馬区石神井町六一二—三

電話 〇三—三九九六—〇一七七

発行人 加藤 美智子